

# 認定看護管理者教育課程 ファースト・セカンド・サードレベル 合格できるレポート・論文の書き方

ヘルメス株式会社 代表取締役

認定 ULTRA® Mater Trainer

国家資格キャリアコンサルタント

## クロイワ正一



## セミナー・プログラム

1. レポートはULTRA®方式で合格をとる
  - ULTRA®って何?
2. 課題や評価基準の「理解」(Understand)
3. 「論」(考え)を導く「理」由探り(Logic)
4. 読みやすい構成への「整理」(TRimming)
5. 実際の「表現」(書き)で必要な技術(Action)
  - 字数をどう膨らませるか
  - 平易で明解な文章にする方法
- 課題レポートの添削例を紹介

2

# 1.総論

## — ULTRA®で合格レベルに到達 —

課題や評価基準の「理解」 Understand

書くべき中身「論理」づくり Logic

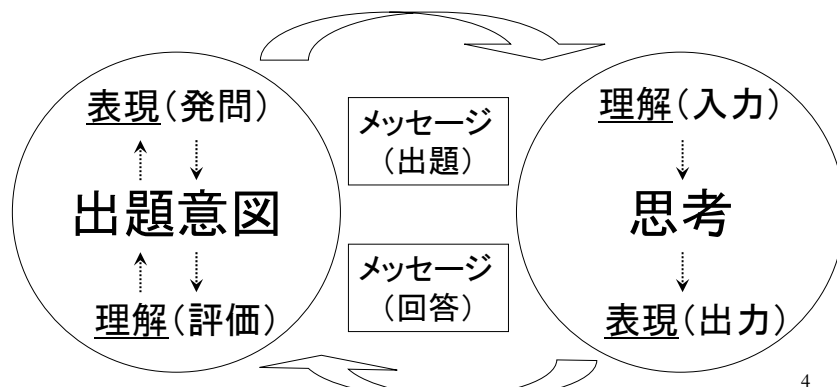
読みやすい構成への「整理」 TRimming

「表現」する際に必要な知識・技術 Action

3

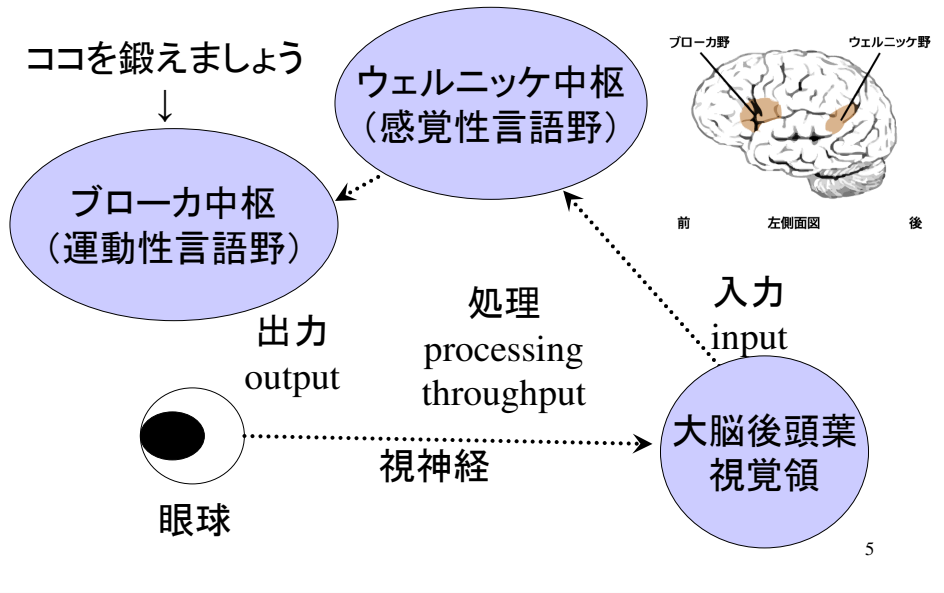
# 文章はコミュニケーション!

- 「書きたいこと」を書ばいいわけではない
- 「求められたこと」を書くことが重要

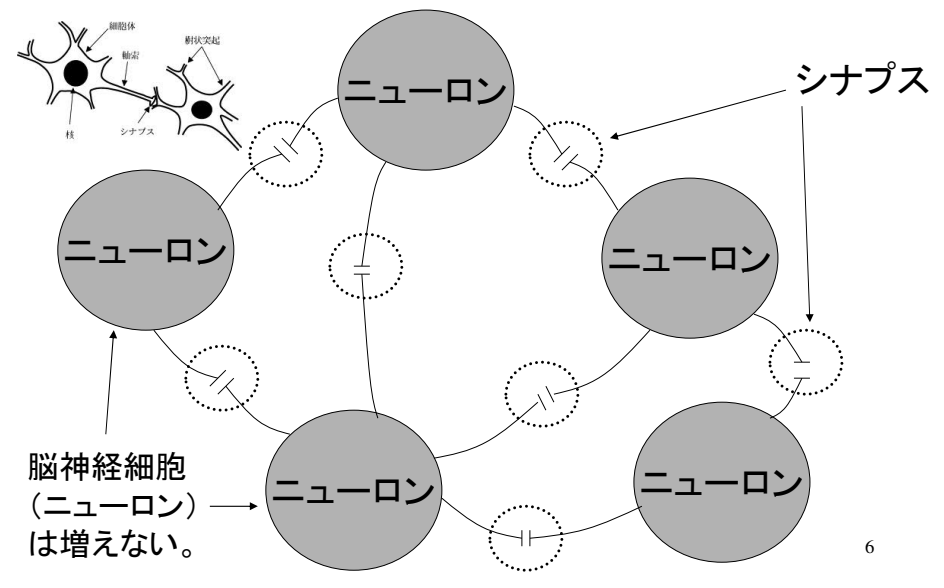


4

# 「聞く・読む」脳と「話す・書く」脳

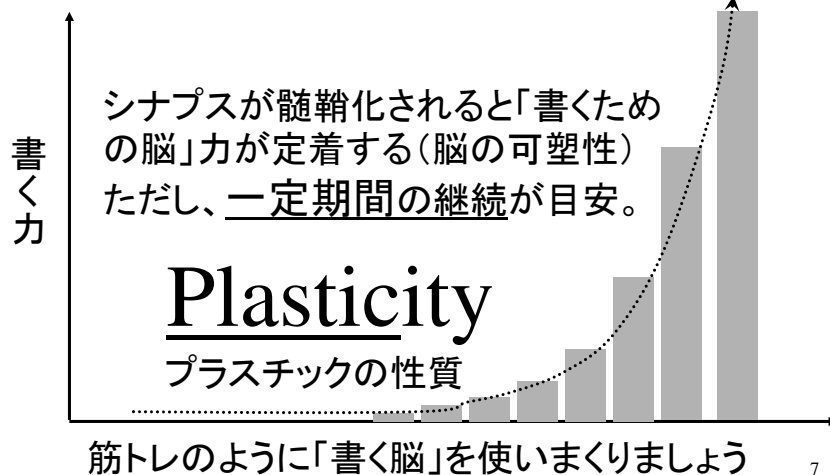


# 脳神経ネットワーク



## 「書く」ことで「書く脳」を鍛える

- ・ 継続的な訓練で「脳は著しく進化する」



## クロイワ正一のエピソード

- ・ 病弱な小学生時代
    - 「本を読め」の指示に「国語辞典を読む」習慣→アウトプット
  - ・ 小学6年時に班ノートを率先して執筆
    - 掃除をサボりたいばかりに1晩で20ページ執筆
  - ・ 中学2～3年生時には感想文で表彰される
    - 旺文社の読書感想文コンクールにて金賞(しかも短編)
  - ・ 1997年に3ヶ月かけて初出版
    - デビュー作『クロイワの楽勝！小論文』
  - ・ 2006年には月6本の連載
    - 『隔月刊 主任&中堅』『月刊 ナースセミナー』『月刊 総務』『月刊 商工会』『月刊 商エジャーナル』『月刊 ビジネスアスキー』
  - ・ 2012年に10日で集中執筆
    - 『看護業務「考え方」「話し方」「書き方」100のコツ』
- 8

## ULTRAで解く

### ・【例題（課題レポート）】

- テーマ：「認定看護管理者教育課程ファーストレベル（セカンドレベル）受講にあたって」
- 現状の問題や自己の課題、研修に期待すること等、研修に臨むあなたの動機や決意を明確に述べてください。なお、テーマの下にはレポート内容に合致する適切なサブテーマを必ずつけてください。（1,000字～1,200字程度 本文のみ）

9

## Understand レポートを書く手順（理解）

- 設問を分析的に理解する
  - 「認定看護管理者教育課程ファーストレベル（セカンドレベル）受講にあたって」がテーマ
  - 「現状の問題や自己の課題、研修に期待すること等、研修に臨むあなたの動機や決意を明確に述べてください。なお、テーマの下にはレポート内容に合致する適切なサブテーマを必ずつけてください。
  - 字数は「1,000字～1,200字程度（本文のみ）」
- 出題意図（背景）を事前に理解する
  - 「レポートの評価基準」の理解（次スライド）

10

## レポートにおける2つの「課題」

- 「課題」は、文脈から2つの解釈がある
  - 課題＝担うべき役割
    - 「現状の問題や自己の課題(自分が担うべき役割)について述べてください……」
  - 課題＝問題(「理想」と「現実」とのギャップ)
    - 「看護サービスの質について、自部署が抱える現状の課題(問題)を具体的に挙げ、その課題(問題)を解決するために自己が担うべき役割について述べてください……」

11

## 出題背景(評価基準)の理解

- ファーストレベル・セカンドレベル課題レポート評価基準

項目	評価の視点
I. 課題の理解	1. 与えられた課題を十分理解している
II. 思考過程	1. 課題に対する問題意識を持って考えている 2. 現状を把握し、理論や概念を用いて分析し、考察している 3. 今後の課題を明らかにしている
III. 記述力	1. 内容が論理的に構成されている

12

## Logic レポートを書く手順(論理)

- 論理の過程とは
  - 論(あなたの考え、主張)の基となる理(理由、根拠)を探り、論を決定する工程
- 論が導かれる2つの過程
  - 自分の体験や周辺社会の観察など「具体的事実」が理由となって論が芽生える.....【 帰納法 】
  - 社会の常識や法則など「一般的傾向」が理由となって論が芽生える.....【 演繹法 】

13

## 【論理づくり】のポイント(帰納法)

- 帰納法で考える
    - 体験や観察の想起(「現状の問題」の事例を想起)
      - ・ 先日、後輩がこんなことを相談してきた。「パートのAさんとBさんが、時間を気にしてしっかり引き継ぎをしないのに帰ってしまうんです。それで、私が改めて担当の患者さんのところに確認しに行くと、怪訝な顔をされます。また、そうしたことで最近は超過勤務が増えています」。
    - 体験や観察(具体的事実)を一般化する
      - ・ パート職員の仕事が不完全だと(原因)、患者さんの不信や管理する正職員の不満が生ずる(問題)。
- ※この問題への対処法を探り示すことが、管理職として私の役割か(自己の課題)。どんな解決策が有効だろうか。<sup>14</sup>

## 【論理づくり】のポイント(演繹法)

### • 演繹法で考える

- 常識や法則の想起(講義要項などから「ねらい」を探る)
  - そもそもこの研修では、どのような能力が向上するのか。
  - シラバスによれば、例えば「看護情報論」では、「情報の概念と特徴を理解し、倫理的な取り扱いを学ぶ」ことをねらいの1つとしている。
- 一般的前提をテーマにあてはめる
  - 「情報の倫理的な取り扱い」といえば、当院の集中治療室でも担当者以外のスタッフや部外者による電子カルテの閲覧などについて、問題が指摘されている(現状の問題)。患者のプライバシーを確保する施策の確立が、管理者である私には求められている(自己の課題)。

15

## TRimming レポートを書く手順(整理)

### • 論理づくりの過程を整理する

- レポートに盛り込むべき要素
  - 論点: 論の焦点=テーマ(～について考えたい。～とは)
  - 論 : 考え、意見、主張(私は……考える)
  - 論拠: 論の根拠=理由・根拠(そう考える理由は……)
- 並べる順序(構成)を整える
  - 序論: (導入+)論点 + 論 ← Main Point 1st
  - 本論: 論拠 + 具体例
  - 結論: 論の確認

16



## 【整理】のポイント

- **タイトル**
  - 認定看護管理者教育課程〇〇レベル受講にあたって（テーマ）
    - CSとESの向上を実現するチーム創造を目指して（サブテーマ）
- **序論**
  - 受講動機と研修への期待（小見出し）
    - 「認定看護管理者教育課程〇〇レベル受講にあたり、私の参加動機と研修への期待について述べたい」（論点）
    - 「私は、本研修を通じてあらゆるステージにいる患者とその家族の満足度（SC）と職員満足度（ES）を向上させる組織の運営手法を習得したい」（論）
- **本論**
  - 現状の問題と自己の課題（小見出し）
    - 「なぜ、このような受講動機や期待を抱いたのか。それは、職員管理体制に問題があるからだ。そこで、師長（主任）として解決策を講ずる課題がある」（論拠）
    - 「例えば、現在、後輩からの相談でパート職員の業務への意識向上策を図らないとCSも管理者のESも低下するという問題に直面している……」（具体例）
- **結論**
  - 決意表明（小見出し）
    - 以上の経緯から、私は、この研修の受講を望み、そして、人材育成を中心とした看護管理の理論を学び、現場で実践していくことを決意した（論の確認）。

- **タイトル**
  - 認定看護管理者教育課程〇〇レベル受講にあたって（テーマ）
    - 情報管理と情報活用による組織活性化を目指して（サブテーマ）
- **序論**
  - 受講動機と研修への期待（小見出し）
    - 「認定看護管理者教育課程〇〇レベル受講にあたり、私の参加動機と研修への期待について述べたい」（論点）
    - 「私は、本研修を通じて看護管理の概論から情報管理や情報活用などについても学び、質の高い看護サービスの提供と医療経済学的観点から考えた効率的なベッド管理体制の構築について学びたい」（論）
- **本論**
  - 現状の問題と自己の課題（小見出し）
    - 「なぜ、このような受講動機や期待を抱いたのか。それは、電子化が浸透した現在の医療現場において個人情報保護は極めて重要な課題だと認識したからだ。また、師長（主任）として、情報漏洩防止策を講ずる役割がある」（論拠）
    - 「例えば、私が勤務する当院の集中治療室では、第三者によって患者の電子カルテが見られそうになったインシデントがあった。そこで、……」（具体例）
- **結論**
  - 決意表明（小見出し）
    - 以上の経緯から、私は、この研修の受講を望み、そして、看護情報管理論を始め、看護管理の理論を多角的に学び、実践することを決意した（論の確認）。<sup>18</sup>

## レポ<sup>o</sup>ートを書く手順(表現)<sup>Action</sup>

- 整理の段階でつくった構成を壊さずに書く
  - 構成の確認
  - 「骨組み」に「肉付け」してふくらませる
    - 換言、詳述、列挙、深耕、譲歩など
- 的確かつ適切な日本語表現・表記で書く
  - 「書き方」の指定に対する遵守
  - 平易かつ明解な表現、正しい語彙・文法知識の反映
    - PC時代に忘れる漢字(3つの「かくしん」は?)
    - アナウンサーも間違える「呼応」(係り結び)

19

## 2. 課題や評価基準の「理解」 Understand

- 1) 課題(設問要求)の理解  
.....最も大切
- 2) レポ<sup>o</sup>ート評価基準の理解

20